

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600063		
法人名	有限会社夢のおと		
事業所名	グループホーム明日風		
所在地	大分県臼杵市大字搔懐27番地		
自己評価作成日	平成28年10月12日	評価結果市町村受理日	平成29年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list&list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	平成28年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所として”地域とともに””地域貢献”を念頭に置いています。入居者様においては”繋がりが続けることの支援”を重視し家族や友人・地域の方々が気軽に来所していただけるような雰囲気作りにも配慮しています。電話やお便りなどにより遠方のご家族様へ近況をお伝えする機会を作ったり、ご家族様と一緒に楽しめる機会を作ることにも努めています。昨年度より共同生活の中にも”個”を尊重できるよう個別外出を実施しています。また、今年度より市外の遊興施設へ日帰りドライブを実施し、非日常的な楽しみを味わっていただけるよう企画しました。”地域貢献”としてお茶の間サロンを週1回開催したり、職員の研修機会をつくるための複数小規模事業所連携研修事業にも取り組んでいます。

山間の長閑な環境に所在しており、避難場所としての設備や備蓄、企業との連携による緊急時対応の飲料水自動販売機の設置に至っています。うすきジャンクション(25年度県始動)の活動の継続にあたり27年度はネットワークづくり・研修や視察の実施、地域福祉の援助の視点からお茶の間サロン明日風の運営や、地域包括ケアのシステムづくりに取り組んでいます。地域との暮らしの向上を志す運営(安心・安全と豊かさ等)の発信活動や積極的な支援にも尽力されています。理念を運営の柱と捉えており、職員の個の強みとチーム力の相互作用による実践への営みにおいて、日々の生活を大切に、個人の支援目標に添った統一性の保てるケアと、笑顔のある日常の暮らしぶりを支援しています。また、補いたい取り組み(支援・雇用)を満たす積極的かつ発展的な行動力も特徴の一環と言えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋がりを続けることを支援するために、家族・友人・地域などとの関係性が良好に保てるよう現状報告や様子が確認できるツールを活用している。	理念を礎とする施設運営において、取り組みへの意欲が伺えます。採用面接の説明や会議での話題として取り上げられ、理念に繋ぐ支援「施設の役割りや地域での営みの意義」について、職員間の周知と営みの継続が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の生花ボランティアや小学校・地区行事の案内などいただくことで交流ができています。また、地域の商店や理美容店の利用などで交流が図れている。	トライアル雇用(職業安定所と職場と求人者)によるパート職員の就労、地域行事の把握と交流関係、施設主催の「お茶の間サロン」開催などの営みを介し、地域との相互協力の体制づくりへの継続的な取り組みが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週1回お茶の間サロンを開催し認知症予防や健康維持の為の取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを掲げて会議開催をしている。その中で出た意見をもとに検索時基本情報の作成やマニュアルの見直しなどに役立っている。	駐在所・市行政機関・協力医療機関・地域代表・家族(交代制2~4名)等の外部参加者との活発な会議では、2か月前にテーマの伝達が図られています。利用者の状況や支援の報告・意見交換等により、相互理解と関係づくりを深めています。	活発な取り組み(地域ニーズの把握・外部評価結果の伝達も含み)において、地域密着型事業所としての前進的な営みの姿勢が伺えます。一層の運営の向上を目指し、職員の意識アップに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただきながら、事業所の実情や課題などをお伝えしている。また担当者を訪ねて随時相談ができる関係性が築けている。	公的機関との関連活動(地域ケア会議・オレンジカフェ・うすきジャンクション)においても、前進的な取り組みの姿勢が伺えます。相互の関連(運営推進会議における情報の共有・訪問による相談等)を、理念の実践と運営の向上に繋げています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度マニュアル委員会を発足し、身体拘束マニュアルの作成を行った。またマニュアル作成後全職員を対象とした研修を実施。玄関等の施錠に関しては利用者様の安全性を優先した取り組みを行っている。	検討課題への取り組みにおいて、幅広い(推進会議・家族)意見の把握に努めた上で、問題点の再確認と見直し点や改善策についての協議、職員間での周知と前進的な実践に取り組んでいます。言葉がけ・チーム力の大切さも把握しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待に関する研修を実施し、虐待防止には注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての研修はできていない。利用に関しても支援の実績なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者による契約時の説明を実施し、同意納得をえている。不安や疑問点に関してもできるだけ丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では毎回家族の方に交代で参加していただき、要望や意見をいただくようにしている。玄関先には提案箱を設置し意見要望を受け付けるようにしている。	グループホーム明日風便りにより個々の生活状況の伝達が個別に行われる中で、日常の面会時での交流(会話・ビデオ観賞)による相互の関係づくりを大切に、意見や要望・家族の思いの把握に努め、支援の活用に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議や管理者による個別面接により、個々の職員の意見や要望を聞き取る機会を設けている。内容を吟味しながら業務改善などに役立っている。	職員からの積極的な意見の発信により、業務体制や日常的な支援の改善(臭いへの気遣いによる、使用オムツ置き場の変更、支援や休み時間の調整など)の実践に至っています。働き易さの視点から、支援の向上に繋ぐ取り組みの姿勢も伺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給時には勤務状況や実績・貢献度などが勘案される。代表者による現状確認のための巡回が行われ職場環境の整備に役立っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報の提供や研修機会の企画などで職員育成の取り組みが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携研修事業をH25年度より継続。同業者との交流の機会やネットワーク作り、勉強会等の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供にあたっては、傾聴を実践しながら本人様の意向や意思の確認を慎重に行っていく。強要強制は行わないことで信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接から家族に寄り添う姿勢で傾聴する。提供できること支援できることなど示しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望んでいることを見極め、それをかなえるために一番有効な方法を一緒に検討していく。専門職としての持てる情報を駆使しできるだけ負担の少ない方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で手伝っていただけることを探し、していただいたことに対して感謝の気持ちを表していく。お互いが助け合っているという感覚が失せないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取りながら、家族に協力していただけることを提案していく。また家族の方にも参加していただけるイベントの企画で共に支えているということを実感していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問希望者に対してはオープンな姿勢をとっている。記念写真撮影や面会者とのゆっくりした時間が過ごせるように、場所の提供や円滑な会話の為の支援を行っている。	家族との交流により、利用者を取り巻く懐かしい人間関係の把握に努め、利用者との三者間において、馴染みの関係との繋がり支援の継続に取り組んでいます。馴染みの場所や人・ペットとの非日常的な時間を大切に、交流に活かしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が円滑に行われるように、関係性の観察を行い、席の配置を工夫したり、共通の会話ができるような投げかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、相談などにはいつでも応じるようにしている。また面会にも応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いなどの把握に努めてはいるが、現実的でない場合は家族の希望や思いを重視してしまっている。	個々の利用者の表情や態度・言葉から受ける気付き「何を思い・何をしたいのか」の受け止めを大切に、個の職員からチームへと情報の共有を支援へと繋ぐ様子が伺えます。統一性のあるケアの実践に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで基本的な情報収集を行ったうえで、さらに日常的な会話の中で少しずつ情報量を増やしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の把握を毎朝行い、状態によって1日の過ごし方を変えている。残存機能に対する評価等は日々の状態観察や職員からの情報で現状把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスの事前アンケートを全職員より取り、評価を参考にした計画作りに取り組んでいる。	更新日より一か月前には、全職員提出のサービス担当者ケア会議事前アンケートが実施され、カンファレンス後の計画策定に至っており、家族の思いや意向の確認も行われています。記載用紙の形式は、把握・共有し易く配慮されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は経過記録用紙に記載している。気づきや工夫に関しては個別記録ではなく申し送りノートを活用し介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況、その時々生まれるニーズに対しては、関係者への連絡や面接によって十分話し合い、適切な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の生活を安全で豊かなものとなるよう努めているが、まだ地域資源を把握し活用できるまでにはなっていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は円滑に行えている。定期的な往診や緊急時の相談、随時の受診支援など家族との連携も含め適切な医療が受けられるよう努めている。	入所以前の主治医をかかり付け医としていますが、家族の希望により協力医に変更するなど家族の納得のいく受診支援になっています。運営推進会議にも毎回、協力医の出席もあり医療との協力関係が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との契約に基づき、医療連携加算を算定している。看護師等との相談や情報共有ができており、適切な受診や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院・退院時の医療機関との情報交換は円滑に行っている。日常的に医療機関との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方については、入居前の相談面接で意向を伺っている。実際にその時期になれば、随時確認を取り合いながら適切な支援ができるよう努めている。	今年度は1名の看取りの実績があります。家族の希望を尊重し、家族、医師、職員が終末期に向けた対応を共有し、随時変化する対応の確認や家族の意向、現状把握の周知徹底に取り組んでいます。管理者は終末期の介護支援の重要性を、新たに研修会等で職員教育を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の方法については職員対象に伝達をしている。また事業所のわかりやすい場所に手順を書いた表を設置している。年1回以上の研修を計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施。夜間想定での避難訓練も実施予定。地域との防災ネットワーク作りを始めている。	消防署、地域の協力の下、定期的な避難訓練を行っています。施設は災害時の町内避難場所にもなっておりAED、緊急時飲料提供ベンダー(自動販売機)を設置し、水分確保等備蓄を準備しています。	地区防災訓練の資料を参考に、地域の協力で訓練を行っており、関係機関との防災ネットワークの構築を行うとともに、机上訓練等で、自然災害時の実践的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格尊重した言葉かけに関しては、フレンドリーになり過ぎた言葉かけもある。親しみを込めた言葉かけの中にも敬う気持ちを忘れないようにと呼び掛けている。	個々の人格を尊重し、尊厳のある生活を支援することを基本に、職員は方言を交えた自然体での対応や目上の方に対する敬語での話し掛けに努めています。トイレ、入浴時の誘導等、羞恥心やプライバシーに配慮し、さり気ない対応を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事もまず本人様への意思確認を重視している。思いや希望を表すことができるよう日常会話がゆっくりとできる時間作りが課題となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベントの参加や外出などに関しては、本人様の意向を確認している。閉じこもり気味の方に関しては少し積極的にお誘いしている。希望に沿った支援をしたいが、機能低下が顕著な場合希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケア・整容・更衣に関しては毎日きちんとできるように支援している。女性には時々マニキュアなどでおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の部分では簡単な作業をしていただくこともあるが、ほとんどが食器洗いやテーブル拭きなど後片付け	品数も多く、バランスのとれた食事で、栄養面や嗜好、職員のアイデアが盛り込まれた献立になっています。食後の片付け等、利用者の能力に合わせた役割を持ち、生き生きとした表情で生活をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合記録表に食事や水分摂取量を記録している。状態や嗜好により他者と変えて提供し摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握することで、トイレへの声掛けのタイミングや失敗しないための工夫など職員間で検討している。リハビリパンツから布パンツに移行できた方も数名。また夜間のみポータブルトイレの使用で排泄の自立ができてきている方もいる。	排泄チェック表をもとに利用者個々のパターンを把握し、手引き歩行での誘導やサインを察知しながらの声掛けをし、昼夜を問わず全員トイレでの排泄を支援しています。トイレまでの歩行、立ち上がり等がリハビリにもなり、排泄の自立支援に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成しており、便秘への注意を払っている。ヨーグルトの提供や水分量の調整・服薬支援など個別対応実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は14:00～夕食前までで予定表を作って週3回は入浴していただいている。予定日でなくても汚染のある方や入浴希望の強い方には随時対応している。	浴室が、2ユニットで続きに使用できるよう設計されており、広い更衣室では介助しやすく、個浴、リフト浴と身体状況に合わせて対応しています。重度化しても可能な限り入浴を支援しており、更衣室にB、G、Mを流す等落ち着いた雰囲気の入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休むことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬情報を入れており各自確認ができるようにしている。薬への関心度は個人差があり全員が理解しているとは言いがたい。服薬状況に変更があったときには申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるだけ充実した日々を過ごせるように、その方の生活歴などを参考にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年からは本人様の希望を把握し実現できるよう個別外出支援を行っているが、頻度は少ない。	裏庭に「明日風ガーデン」を作り、野菜や花々が植えられ、職員とともに育てる方、毎日外に出て眺める方等、楽しみを増やし自由に外出できる機会を作っています。また、全国認知症啓発活動で各地を繋ぐ「タスキリレー」にも利用者も参加したり、外出の個々の支援にも取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物ドライブの時にこずかい程度を所持していただき、自由に使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により取次の形で利用していただいている。手紙のやり取りは受け取ることにはあるが、返事を出すことができない。暑中見舞いや年賀状を作成し家族宛に出すことはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地の良い空間となるよう配慮している。トイレに関しては臭いに配慮し汚れた時にはすぐに掃除を行うように心がけている。	玄関、ホールには、地域の方の差し入れの季節の花が沢山飾られ、壁面の飾りつけは、利用者が興味を持って作成できるように職員の工夫が見られる作品です。建物内は畳(掘ごたつ)や木材を使った落ち着いた雰囲気と、キッチンでは、利用者と和やかに会話しながらの調理姿に安らぎを覚えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2~3人掛けのソファや掘りごたつを設置して思い思いに過ごせる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具などを持ち込めるようにしている。写真や絵画・観葉植物などでもその方らしい部屋にしていただき、落ち着いた環境への配慮に努めている。	備え付けのベッドとタンスが設置しており、家族写真やイス、毛布等馴染みの物が配置され、その人らしく過ごせる環境を作っています。自分の部屋とわかるよう目印もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンを中央部に配置し、いつでも手伝っていただけるようにしている。トイレの表示や中庭の設置で一人ひとりの力を生かせる環境づくりに努めている。		